

第5・6学年 国語科 学習指導案

日 時 平成30年9月21日(金) 5校時
児 童 5年生 男3名 女2名 計5名
6年生 男2名 女6名 計8名
授業者 立 花 由 利 (T1)
及 川 愛 (T2)

- 1 単元名 書き手の意図を読み取ろう
教材名 「新聞記事を読み比べよう」
(東京書籍 5年)

- 2 単元について
(1) 教材について

この教材の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読む(1)イ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」である。

本教材では、身近なメディアの一つである新聞を取り上げ、新聞記事の種類、紙面の編集のされ方などを説明している。新聞記事を構成する見出しやリード文などとともに、写真の役割を確かめ、新聞の特徴や構成を学ぶ。そして、「アユの遡上」取材した二つの新聞記事を取り上げ、記事を構成する見出しや写真などを比べて読むことで、書き手の意図に違いがあることに気づくことができる。新聞に親しみ、社会の出来事に関心を持つ児童を育てるために適した教材といえる。

- (2) 児童の実態について

5年生の児童は、「資料を生かして考えたことを書こう」で資料から読み取ったことをもとに自分の考えをはがき新聞にまとめた。また、「動物の体と気候」では、文章の構成を考えながら、要旨をまとめる活動を行った。さらに、新聞スクラップに取り組み、要旨や感想をまとめる活動を行っている。しかし、書き手の意図を考えながら読む力は十分ではない。そこで本単元では、新聞の見出しを考える前に、新聞記事を構成する一つ一つの要素から、書き手の意図を考える活動を設定した。

- (3) 本単元における新聞活用(言語活動)

言語活動として、二つの新聞記事を読み比べて書き手の意図をとらえ、自分で新聞記事の見出しを考える言語活動を設定した。

見出しを考える前に、書き手の意図を考えさ

- 1 単元名 新聞の投書を書こう
教材名 「新聞の投書を読み比べよう」
(東京書籍 6年)

- 2 単元について
(1) 教材について

この教材の重点指導事項は、学習指導要領におけるC読む(1)イ「目的に応じて、本や文章を比べて読むなど効果的な読み方を工夫すること。」及びウ「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえて要旨をとらえたり、事実と感想、意見などとの関係を押さえ、自分の考えを明確にしながらかんたりにすること。」である。

本教材では、「スポーツすることの目的」について書かれた意見の異なる4つの投書を紹介している。4つの投書はすべて「話題の提示」「書き手の意見や主張」「第一の理由や根拠」「第二の理由や根拠」「予想される反対意見に対する反論」「書き手の考え」の構成で書かれているので、文章構成がとらえやすい。そして、説得の工夫として「経験を述べる」「具体的な数値を入れる」などの説得力を持たせるための工夫が具体的に示されているので、自分が投書を書く際にも活用することができ、新聞をかんたりに書いたりするのに適した教材である。

- (2) 児童の実態について

6年生の児童は、「イースター島にはなぜ森林がないのか」で、筆者の主張を読み取って、それに対する自分の考えをもつ学習を経験している。「資料を活用して呼びかけよう」の学習では、文章表現や構成に気を付けて、身近な環境問題についてはがき新聞にまとめる活動を行った。さらに、新聞スクラップに取り組み、要旨や感想をまとめる活動を行っている。しかし、書き方の工夫を捉えたりすることや、自分の考えを理由を明らかにして書くことは十分ではない。そこで本単元では、新聞の投書から説得の工夫を読み取り、理由を明らかにして自分の考えを書くことをねらいとした。

- (3) 本単元における新聞活用(言語活動)

言語活動として、教材文の新聞の投書を読み比べて学んだ「構成」や「説得の工夫」などを使って、自分の意見を「投書」として書く活動を設定した。

せる。書き手の意図を読み取るために、①2つの記事の同じところ②見出しや写真から読み取れること③記事のリードであらすじをつかむの3つのポイントについて考えさせる。

見出しは書き手の意図が凝縮されたものである。見出しを考える活動を通して、新聞記事を構成する一つ一つの要素に、書き手の意図が込められていることが実感でき、「書き手の意図を読み取る。」という本単元で目指す子どもの姿にせまるものとする。

最初に、4つの教材文で書き方を学ぶ。それぞれ意見の異なる投書について書き手の主張をとらえながら文の構成を理解し、説得の工夫を見つけ、投書の書き方のポイントをまとめさせる。次に共通教材から一つ選び、学んだ構成や説得の工夫を使って意見文を書き、意見交流させる。そして、自分の選んだ題材で、学んだポイントを使って実際に投書欄に投稿する目的で意見文（450字以内）を書かせる。

これらの活動を通して、「書き手の工夫を読み取る力」「理由を明確にして自分の考えを書く力」という本単元で目指す子どもの姿にせまるものとする。

3 単元の目標

- 記事と写真との関係に注意しながら、新聞記事を読み比べ、書き手の意図を読み取ることができる。

3 単元の目標

- 投書を読み比べ、文章に表れている書き手の工夫について読み取り、理由を明らかにして自分の考えを書くことができる。

4 単元の評価規準

4 単元の評価規準

<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事には意図があることを理解し、進んで書き手の意図を読み取ろうとしている。 	態度 関心 ・意欲 ・	<ul style="list-style-type: none"> ・新聞の投書の特徴を捉え、進んで書き手の主張や説得の工夫を読み取ろうとしている。 ・自分の意見を明確にもち、それが伝わるように読み手を意識した文章を書こうとしている
<ul style="list-style-type: none"> ・2つの記事を読み比べ、写真や見出しに気を付けて、それぞれの記事の内容やねらいの違いを読み取っている。C(1)イ ・書き手の意図を考えながら、見出しの効果や工夫を読み取っている。C(1)ウ 	読む 能力	<ul style="list-style-type: none"> ・理由付けの仕方や根拠の挙げ方に気を付けて投書を読み比べ、それぞれの書き手の工夫を捉えている。C(1)イ ・書き手がどのような事例を挙げて説得しようとしているのかを読み取り、自分の考えを明確にしている。C(1)ウ
<ul style="list-style-type: none"> ・記事の内容や写真に合う効果的な見出しを工夫して書いている。B(1)オ 	書く 能力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えが読み手に伝わるように構成を工夫し、理由を明確にして投書を書いている。B(1)イ ・事実と意見を区別し、投書という目的に応じた工夫を行い、文章を書いている。B(1)ウ
<ul style="list-style-type: none"> ・新聞記事を読み、記事の中の表現の工夫について気づいている。伝国(1)イ(ケ) 	知識・ 言語に 理解・ ついて 技能の	<ul style="list-style-type: none"> ・投書の文章の構成を、目的とともに理解している。伝国(1)イ(キ)